



リージョンマトリクスの更新

リージョンテーブルが物理ロケーションを定義するのに対し、リージョンマトリクステーブルはリージョン内で使用可能な帯域幅とリージョン間で使用可能な帯域幅を定義します。BATの[リージョンマトリクス (Region Matrix)] メニューを使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。

リージョンマトリクスの実装および実装解除

リージョンマトリクスを実装または実装解除する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [リージョンマトリクス (Region Matrix)] > [リージョンマトリクスの実装 / 実装解除 (Populate/Depopulate Region Matrix)] の順に選択します。[リージョンマトリクス設定 (Region Matrix Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション (Region Matrix Options)] セクションで、[リージョンマトリクスの実装 (Populate Region Matrix)] または [リージョンマトリクスの実装解除 (Depopulate Region Matrix)] のいずれかを必要に応じて選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの名前を入力します。この情報により、ジョブが識別しやすくなります。
- ステップ 4** ジョブをいつ実行するかに応じて、[今すぐ実行 (Run Immediately)] または [後で実行 (Run Later)] を選択します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。必要に応じて、このウィンドウを使用してジョブを再スケジュールすることができます。



(注)

他の BAT プロセスと異なり、リージョンマトリクスを実装または実装解除するジョブの進行は、渡されたレコードの数、失敗したレコードの数、または処理されたレコードの数で測定することはできません。結果は、プロセス全体が完了しないと確認できません。



(注) レコード数の作成は、このトランザクションには適用されません。

管理者はリージョン帯域幅のデフォルトを変更できますが、BAT メニューを使用して変更することはできません。



(注) リージョン帯域幅のデフォルトにアクセスするには、Cisco Unified Communications Manager で [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。パラメータタイプは Cisco CallManager で、目的の 4 つのパラメータは [Clusterwide Parameters (System - Location and Region)] セクションの一部を構成しています。
